

『タマネギのべと病越冬罹病株の防除』

2月になり、べと病越冬罹病株の発生が確認されました。これから暖かくなるに従い、発生が増える可能性がありますので先手を打って防除を行いましょう。

越冬罹病株の抜き取り

越冬罹病株とは前年秋に感染したべと病菌が、葉内に潜伏した状態で冬を越し、2月頃から全身感染症状として、病徴が現れる株のことです。

放置しておくと孢子がほ場全体に蔓延し2次感染を繰り返します。見つけ次第抜き取りほ場外に持ち出し焼却もしくは土中深く埋めて処分します。

2～3月は特にほ場をよく観察し、越冬罹病株の早期発見、早期抜き取りに努めてください。

写真 ベと病越冬罹病株



《越冬罹病株の特徴》

- ・葉が湾曲し、黄色っぽくなってツヤが無くなり灰色のカビを生じます。
- ・ほ場で健全株と比べると草丈が低く見えます。

薬剤散布

- ・越冬罹病株の抜き取りを行い、べと病菌の密度を減らしてから散布を行うと効果的です。
- ・3月からは防除間隔を7～10日とし、3月中に3回は防除を行ってください。
- ・展着剤を混用し雨の合間をみて防除を行ってください。
- ・FRACコードの異なる薬剤をローテーション散布してください。

タマネギのべと病登録農薬の例

令和4年2月時点

薬剤名	希釈倍率 (倍)	使用回数制限 (回)	有効成分	予防治療効果 (目安)	FRAC コード	有効成分の 総使用回数(回)
リドミルゴールドMZ	1000	3	マンゼブ	予	M3	5
			メタラキシルM	予+治	4	3
ベトファイター顆粒水和剤	2000	3	シモキサニル	予+治	27	3
			ベンチアバカルブイソプロピル		40	3
レーバスフロアブル	2000	2	マンジプロマミド	予+治	40	2
ランマンフロアブル	2000	4	シアゾファミド	予+治	21	4
プロポーズ顆粒水和剤	1000	3	ベンチアバカルブイソプロピル	予+治	40	3
			TPN	予	M5	6
ジマンダイセン水和剤	400～600	5	マンゼブ	予	M3	5